JENESYS2019

JENESYS2019 ASEAN 派遣プログラム第 8 陣の記録
テーマ：日本文化交流，派遣国：ラオス

１．プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2019 の一環として，ラオス語又は英語で各分野を効果的に発信ができる大学生 16 名が 2020 年 2 月 18 日～2 月 26 日の 8 泊 9 日の日程でラオスへ派遣され，日本の政治，経済，社会，文化，歴史に関する理解促進，及び日本の魅力等の積極的な発信を目指し，「日本文化交流」をテーマとしたプログラムに参加しました。

一行はラオス訪問中，日本の在外公館，ＯＤＡサイトや日系企業等を訪問・視察し，日本とラオスとの関係や日本の経済・技術の政府開発援助及び国際貢献に関する知見を深めたほか，日本がラオスに対して社会的・経済的に大きく影響・貢献していることを学びました。また，大学交流やホームステイ体験を通じて，ラオスの生活文化に対する理解を深めました。一行はプログラム中，ラオスにおける対日理解の促進，両国間の信頼関係増進の基盤強化を目的として，各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また，帰国前の報告会では，ラオス訪問経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）についてグループ毎に発表しました。

【参加者所属先・人数】　東京外国語大学 5 名，新潟県立大学 5 名，早稲田大学 5 名

２．日程

２月１８日（火）　ー ラオス着

２月１９日（水）　ー オリエンテーション
ー【表敬】 在ラオス人民民主共和国日本大使館
ー【表敬】ラオス青年同盟（Lao Youth Union）
ー【視察】JICA・ODA サイト：首都ビエンチャン上水道拡張事業プロジェクト

２月２０日（木）　ー【聴講】ジェトロ・ビエンチャン事務所
ー【視察】ラオ・ミドリ・セーフティシューズ

２月２１日（金）　ー【学校交流】ラオス国立大学

２月２２日（土）　ー ホームステイ

２月２３日（日）　ー ホームステイ
ー【視察】COPE ビジターセンター

２月２４日（月）　　ー【視察】ホアイホン職業訓練センター
　　　　　　　　　　ー【ワークショップ】

２月２５日（火）　　ー【成果報告会】
　　　　　　　　　　ー ラオス発

２月２６日（水）　　ー 帰国

３．プログラム記録写真

2 月 19 日 【オリエンテーション】	2 月 19 日 在ラオス人民民主共和国日本大使館訪問
2 月 19 日【表敬】 ラオス青年同盟（Lao Youth Union）	2 月 19 日【視察】JICA・ODA サイト 上水道拡張事業プロジェクト
2 月 19 日【視察】JICA・ODA サイト 上水道拡張事業プロジェクト	2 月 19 日【視察】JICA・ODA サイト 上水道拡張事業プロジェクト

2 月 20 日【聴講】 ジェトロ・ビエンチャン事務所	2 月 21 日【視察】 ラオ・ミドリ・セーフティシューズ
2 月 21 日【学校交流】 ラオス国立大学	2 月 21 日【学校交流】 ラオス国立大学
2 月 22 日 ホームステイ	2 月 24 日【視察】 ホアイホン職業訓練センター

2 月 25 日
【成果報告会】

4．参加者の感想（抜粋）

◆ **大学生**（東京外国語大学）

大使館や JICA 等，観光では絶対に訪問できない場所へ行き，ラオスの歴史や社会に関して学ぶことができたのが良かった。JETRO では講義はもちろん，その後の質疑応答の時間もとても充実しており，普段の大学での授業や学習の中で疑問に思っていたことや知らなかったことを解決できた。ラオスという国をより深く知れたと思う。またホームステイを通してラオス人の国民性や生活について実際に体験することができ，ラオス国立大学での交流では，現地の大学生と日本とラオスについて文化の違いや同じことを話し合えたのも有意義だった。

◆ **大学生**（東京外国語大学）

将来ラオスに関わる仕事がしたいため，現地企業や留学先の大学の生徒とつながりを持てたことが大変嬉しく，また光栄に思う。今回さまざまな場所を訪問して得られた知識や経験はそこに活かせるかと思うので，とても貴重な経験になった。特にラオスの農業経済において，隣国タイの影響により新しい品種が他の途上国よりもずっとすんなり受け入れられたことを知り，開発経済の研究において参考になった。

◆ **大学生**（東京外国語大学）

日本人よりおもてなしの心が強い，ラオス人の温かく親切な人柄が 1 番印象に残っている。今回は大使館や日系企業訪問などでラオスに対する日本の援助などを視察したが，私は外国人としてというより，一ラオス国民としてラオスに関わっていけるような人間になりたいと思った。東南アジア最後の秘境と言われ，現在首都ビエンチャンを中心に開発が進んでいるラオスだが，今あるラオスの良さを壊さずに，必要とされる範囲での発展が進んでいけば良いと思った。

◆ **大学生**（新潟県立大学）

ラオス国立大学での学生との交流が良かった。各学生の発表だけではなく，ゲームなどのレクリエーションやダンスの発表など，様々な催しが用意されていたことでコミュニケーションが取りやすくなり，学生間の仲も深まったように思う。

◆ **大学生**（新潟県立大学）

ラオスの経済の発展や教育のあり方など，様々なことについて学ぶことができた。現地の方と接する度に，ラオス人の人柄の良さが分かった。また首都であるビエンチャンでも，中心地と近郊では差が激しいことなど，実際に目の当たりにして驚いたし，そのような点ではまだ発展が足りないと感じた。さらに，ホームステイという経験をさせていただいて，家族の方が快く迎え入れてくださっておもてなしの心を感じたので，その点は日本人の心にも通ずるものなのではないかと嬉しく思った。今後，日本に帰って，ラオスの方の人柄の良さやラオスの良さなどについて発信していけたらと思う。

◆ **大学生**（新潟県立大学）

東南アジアは日本から近いため日本人として東南アジアの状況よく把握しておくことが大切だと感じた。また日系企業のラオス進出がラオスの経済成長に大きく寄与していることを知り嬉しく思った。企業がラオスへ進出するメリットをより広く知ってもらうことで，ラオスがより豊かになることを願うとともに，生活の豊かさが人々の幸福がイコールする訳ではないし，先進国が途上国にやってもらいたい事業が途上国にとって優先順位が低いことも我々は知らなければならない。

◆ **大学生**（早稲田大学）

ホームステイの際にパトゥーサイやその他の寺院など，歴史的・伝統的な施設を周り見学したり，それを通してラオスの方々の国民性や信条を垣間見られた点が良かった。また学校訪問等により現地の人と仲良くなることで，より深い実情などを聞くことができ，表面的な理解だけではなく深い考察を行うことができたと思う。

◆ **大学生**（早稲田大学）

派遣には東南アジア地域における渡航経験が皆無であったため，発展途上国という漠然としたイメージが先行していたが，実際に滞在してみると，場所によっては日本と遜色ない成長を遂げている地域が存在していることに驚きを感じた。こうした成長が起きる見込みや可能性が秘められている東南アジアは今後のビジネスにおいて発展の鍵を握る地域になると予想される。

◆ **大学生**（早稲田大学）

今回のプログラムは，ラオスのことを深く知るきっかけを与えてくれた。例えばラオスの社会問題の議論をした際，経済力や教育の質の差が大きな問題であることが理解でき，自身がどれだけ恵まれているかに気づかされた。今後も発展途上国に対する興味・関心を持ち続けていきたい。

５． 受入れ側の感想（抜粋）

◆ **日本大使館**

日本のラオスへの取り組みに高い関心を寄せているようで，ラオス経済と成長率，それに伴う現状の物価等についての質問が多かった。

◆ **ラオス青年同盟**

ラオスによるラオス人少年や青年への取り組み，職業あっせんの仕組みや方法に関する質問をしていた。

◆ **チナイモ浄水場**

首都ビエンチャンだけでなく，JICA のラオス全土への取り組みについてや有償・無償の取り組みの違いや差についての関心・質問が多かった。

◆ **COPE ビジターセンター**

地雷や不発弾の現状，それにより義足・義手になった方々へのサポートや取り組みについての話を聞き，真剣に各展示物や資料を見ていた。ラオス人は今も詳細情報を知らない人が多いと聞き，社会主義国家における情報統制についてや，教育の中での歴史や真実をどのように子供たちが学んでいるのか，等の質問が多く出ていた。

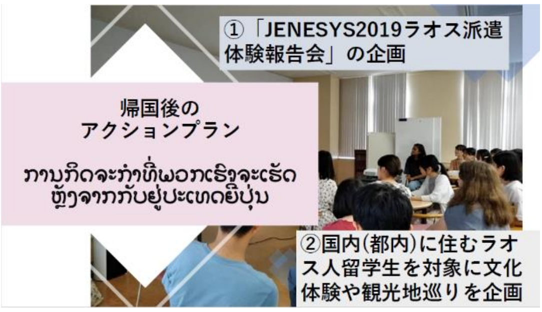
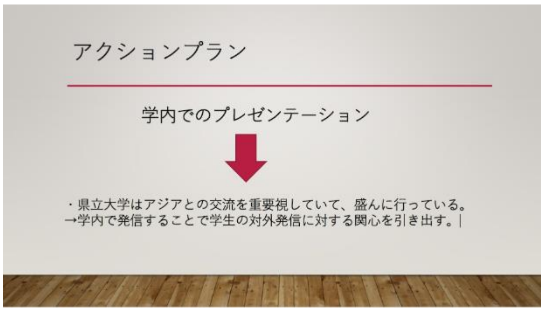
６． 参加者の対外発信

【視察】JICA・ODA サイトについての発信

【視察】COPE ビジターセンターについての発信

【視察】ラオ・ミドリ・セーフティシューズについての発信	【学校交流】ラオス国立大学についての発信

7．報告会での帰国後のアクション・プラン発表

 	
アクション・プランの発表：東京外国語大学 日本でのイベント ①「JENESYS2019　ラオス派遣　体験報告会　」の企画。 ②国内(都内)に住むラオス人留学生を対象に，文化体験や観光地巡りを企画。	**アクション・プランの発表：新潟県立大学** 学内でのプレゼンテーション ・県立大学はアジアとの交流を重要視していて，盛んに行っている。 →学内で発信することで学生の対外発信に対する関心を引き出す。

事業実施団体：株式会社ＪＴＢ